

## 『周期律表と病理学』

### 看護学科 自見 厚郎 教授

私の高校時代、理科・社会科で生物・地学・理・化学、地理・世界史・倫理社会・政治経済を学んだ。ゆとりの対極で、何よりも万遍なく知識を得ることが文部省の方針だったのだろう。周期律と周期表は何故か記憶に残っていて、病理学各論の講義を聞きながら再び思い出したことを憶えている。当時の参考書、竹林保次著「化学の精義」によれば、1869年メンデレフ(1834～1907)は「元素を原子量の小さいものから順に並べると、類似元素が同じ列に収まるように配列することができる」と述べ、当時知られていた63元素を始め6周期、後に8族、12列の配列として発表した、という。メンデレフ以前にデベライナーの3つ組元素の法則やニューランズのオクターブの法則等が発表されていた。発表当初、周期表には空欄があり新元素の存在を予言し、事実Sc、Ga、Geなどが発見されたとのことで、化学の発展に大きく貢献した。

規則性を見出すために、あるルールで元素を並べて表の枠の中に入れ込むことが必要である。自然界にルールがあるに違いないと、ルネッサンス以降の人々は新たな知見を求めた。神様が創造されたこの世界に、神の技、神の意志を確かめたくて、科学研究は現在まで続けられている。日常生活ではなく科学にも神の存在が欠かせないという西欧世界はしち面倒くさい。ギリシャの知の体系は純粋な知的欲求と雑多な知の整理という作業から生

まれたものだ。東洋にも同様の仕事は残っている。何れにせよ整理には方針が必要である。例えばアリストテレスが動物の分類に用いたのは、赤い血液の有無であった。

さて病理学である。疾病に関する理屈、上記のルール、を研究する学問であると学生に教えている。病気に対する考え方は、医学史を繙けば、液体病理学説、固体病理学説の2つの考え方が通奏低音であるが、あまり意識されない。18世紀半ばのモルガーニ(1682～1771)の器官病理、18世紀末のビシャー(1771～1802)の組織病理、19世紀半ばのウィルヒョウ(1821～1902)の細胞病理と大きな流れでは教えるが、歴史の中の臨床医学となると足元が覚束ない。そのなかで病名を意識したのが、小舞踏病で有名なイギリスのヒポクラテスとよばれるシデナム(1624～1689)である。当時の診断は、現象をそのまま病名に用い、高熱を発して死ねば「熱病」、高熱を出し汗をかけば「発汗病」という状況だったが、シデナムは大陸の医化学派、医物理学派の両学派に属さず超然とし、病気にも種があるという考え、臨床上の経験と患者の詳細な観察を重視し、疾病記述を行い病気を自然史、博物誌として捉えた。ベーコンの「枚举」を医学で実施し、その帰結として、病気を(1)体液による病気、霊気による病気、(2)急性と慢性、(3)散発病と流行病に分類した。種と捉えることは実体化して理解することを意味したが、自

然科学は未熟であった。分類で想起するリンネの分類を医学に導入したのはピネル(1755～1825)の「哲学的疾病記述論」(1798)であるが、シデナムに遅れること100年以上であった。

病気に対する考え方は19世紀半ばから大きく変化する。先のウィルヒョウと覇を争ったのがロキタンスキー(1804～1878)で、臨床医学における真の科学的根拠と病理学の基礎の確立を目指し病的変化の進行と結果を研究し、一定の症候は必ず一定の解剖学的変化に基づくことを明らかにした。病変の分類は肉眼所見を重視したもので、(1)形成の欠乏または過剰、(2)大きさの異常、(3)形または位置の異常、(4)構造の連続性の中断、(5)組成ないし内容物の異常である。これに対して、ウ

イルヒョウ以降の病理学の病変は(1)先天異常、(2)退行性病変、(3)進行性病変、(4)循環障害、(5)炎症、(6)腫瘍であり、彼我の差は歴然である。

今でも病理学の最初の講義では、学生に知っている病気の名前を挙げさせて、6病変と系統別に分けた臓器の表の升目にその病名を入れるゲームをさせている。



\*\*\*\*\*

## 『第22回医学教育ワークショップ開催決定!』

本学医学部ではこれまで二年に一度『医学教育ワークショップ』を開催し、現在の医学教育を見つめ直し、将来に向けた新しい教育の在り方について鋭意検討を重ねてまいりました。

第19回医学教育ワークショップより発足した「大学院部会」ですが、今回は、大学院の理念及び教育目標について討議する予定です。

～「大学院部会」の概要は以下のとおりです～

【日 時】平成24年8月2日(木)～8月4日(土)

【場 所】唐津ロイヤルホテル(佐賀県唐津市東唐津4-9-20)

【大学院部会テーマ】

「大学院の理念・目的に沿った教育目標の策定」

【討 議 内 容】

- (1) 具体的な教育目標の策定
- (2) 3大ポリシーの点検評価
- (3) 専門看護師教育課程の新科目、課題研究の検討

現在、この大学院部会の参加者を募集しております。参加ご希望の方は6月29(金)までに医学部事務部教務課までお問い合わせください。

## 事務通信



### ◆博士課程の皆様へ◆

## 平成24年度 博士課程共通科目レポート提出期限について

博士課程共通科目を履修された方、前期レポートの提出期限が迫っています。提出先・レポート課題をご確認のうえ、所定の期日までにご提出ください。

### 「ゲノムドラフトの解明」レポート

(科目責任者：古賀教授)

課題：2題

書式及び量：レポート1 A4 2枚  
レポート2 A4 2～3枚  
程度

提出期限：7月31日(火)

提出先：医学部事務部教務課

### 「遺伝子多型 (SNPs)」レポート

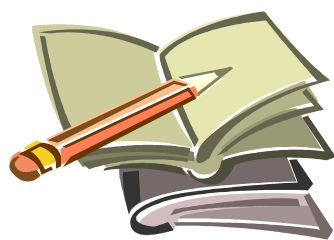
(科目責任者：神田教授)

課題：Genome Wide Association Study  
について

書式及び量：A4 2～3枚

提出期限：6月29日(金) 17時

提出先：医学部事務部教務課



### 「ゲノム創薬の進歩」レポート

(科目責任者：児島教授)

課題：『ゲノム創薬について具体的な薬を挙げて解説してください。』

書式及び量：A4 3枚以内

提出期限：7月31日(火)

提出先：分子生命科学研究所 児島教授

### 「免疫関連分子と T 細胞抗原レセプター多様性の解明」レポート

(科目責任者：伊東教授)

課題：5/14(月)講義時に提示済み

書式及び量：A4 2枚

提出期限：9月28日(金)

提出先：免疫・免疫治療学医局(渋田氏)

### 「臨床・基礎研究と生命倫理(コンサルテーション)」レポート

(科目責任者：嘉村教授)

課題：3題

提出期限(レポート2)：7月31日(火)  
18時

提出先：小児科医局(溝田氏)

\*\*\*\*\*

### ◆健康診断未受診者の方へ◆

医学部B棟1階保健室にて実施しておりました健康診断はお済みでしょうか？  
やむを得ない理由で受診できなかった場合は、これに代わる証明書を7月6日(金)までに必ず保健室(健康・スポーツ科学センター旭町分室)へ提出してください。  
特に、働きながら大学院に来ている社会人入学の方は、職場で健康診断が行われていますので、その結果のコピーを保健室までご提出下さい。



◆現住所調査票未提出の方へ◆

修士課程・博士課程全大学院生の皆様へ「現住所調査票」を配布しております。未提出の方は、7月13日(金)までに医学部事務部教務課へご送付ください。ご協力よろしく申し上げます。※以後現住所の変更がある場合は「学生現住所変更届」の提出が必要です(大学院HPよりダウンロード可)。

## 平成24年度 大学院セミナーシリーズ(特別講義) カリキュラムのお知らせ

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
皮膚科学	7月2日(月) 17:30~19:00	臨床研究棟2階カン ファランスルーム	Department of Dermatology, Chonnam National University Medical School・Professor Jee-Bum Lee 先生	The effects of Light-emitting diode (LED)
病理学	7月13日(金) 17:30~19:00	基礎1号館2階会議 室	国立病院機構仙台医療センタ ー臨床検査科・科長 鈴木 博義 先生	頭蓋内腫瘍診断と臨床細胞 学
外科学	7月19日(木) 14:00~15:30	教育1号館5階 1501教室	東京慈恵会医科大学外科学講 座・血管外科・教授 大木 隆生 先生	ステントグラフトによる大 動脈瘤治療(仮)
皮膚科学	7月19日(木) 16:00~17:30	臨床研究棟2階カン ファランスルーム	聖マリアンナ医科大学皮膚科 学教室・准教授 川上 民裕 先生	ANCA 関連血管炎以外の血 管炎の病因 (皮膚科からのアプロー チ)
外科学	7月25日(水) 16:00~17:30	教育1号館5階 1501教室	社会保険久留米第一病院・外 科部長 田中 真紀 先生	乳がん治療と臨床試験の進 め方

7月までの確定分をお知らせしております。日時・場所等に変更があったものにつきましては、確認でき次第、大学院医学研究科ホームページでお知らせいたします。また、当該科目履修者は5回以上のセミナー出席およびレポートの提出をお願いいたします。  
レポートについては、各セミナー終了後1週間以内に、医学部事務部教務課までご提出ください。

\*\*\*\*\*

## 編集後記

24年度がスタートして早くも3ヶ月が過ぎようとしています。4月より教務課：大学院事務担当を菅原・長田・瀧口の3人体制で行ってまいります。皆様のサポートに努めてまいりますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

さて、今夏は二年に一度の医学教育ワークショップ開催年です。今後の大学院がどうあるべきか、教授から学生まで大々的に議論する機会は他にありません。皆様のご参加をお待ちしております。(長)

